

⇒

中部地方整備局、愛知県、名古屋市と 技士会現場技術者との意見交換会

令和4年7月29日(金)午後1時30分から名古屋市中区丸の内アイリス愛知2階「コスモスの間」で現場技術者と中部地方整備局、愛知県建設局、名古屋市緑政土木局が参加して意見交換会が開催されました。

今回の意見交換会は、「働き方改革や生産性の向上など」について、より具体的で身近な話題をテーマにするということで、①SDG s について、②建設キャリアアップシステムについて、③周辺対策についての3項目としました。また、やり方も予め参加する現場技術者にテーマを割り振り、事例発表形式で行う方法に変えました。



会場の様子

まず、SDG s については①「従事していた現場でICT技術を活用した工事を経験し、非常に便利であるので、建設現場の主流になればと思っている。」②「会社ではSDGsの17目標のうち10項目を推進している。このうち、人と自然との共存を目的とした簡易ビオトープの設置や橋脚イルミネーションの設置、環境負荷の低減活動に携わった。」③「ICT建設機械の使用による人員削減やCO2の排出量の

削減、雨水の利用による水の削減、太陽光の利用による排気ガスの低減と地球資源の削減、遠隔臨場・Web会議による生産性の向上、電納Asperの利用による業務の効率化、紙資源の削減、現場場見学会や現場周辺のごみ拾いにより地球への貢献を実施した。」の事例発表があり、中部地方整備局からSDG s の取組みは作るときだけではなく、使うときも含めてSDG s だと思っている。この取組みを直接加点するものはないが、工事成績の評価で創意工夫という項目があるので、この中で適切に評価していきたい。

愛知県からはICTの活用は工事の成績ではなく総合評価で加点対象としている。

名古屋市からはICT活用は現場周辺の環境対策やイメージアップなどとともに、創意工夫の観点から評価していく。

との回答がありました。

次に、建設キャリアアップシステムについては、①「現場で建設キャリアアップシステムの取組みを行ったところ、カードリーダーのタッチ数が伸び悩んでおり、従事者がこのシステム導入による直接的なメリットを受けていないことが原因だと思う。」②「メリットとしては、各技能者が有する資格や保険の加入状況が一覧でき、施工の安心感につながることや施工体制台帳等で活用できることである。デメリットはカードを持っていてもあまり意味がないと感じている者大勢いること、システムエラー等でまったく閲覧できないときがあることである。」③「普及はしてきたが、

発注者にも受注者にも価値あるものにして欲しい。技能者が進んでカードを作りたくなる工夫が必要で、例えばカードの裏面に資格証の記載をもって本証携帯と同じ扱いにするなどの措置である。」といった発表がありました。

中部地方整備局からは、カードにどういう機能があれば使いたくなるかということだと思ふ。カードが本証と同様なものとして扱われるなどの方策を検討したい。

愛知県からは、建設キャリアアップシステムの必要性は認識している。より一層のメリット、インセンティブを設けることでシステムの導入を図っていきたい。

名古屋市からはキャリアアップシステムって何という事業者もいる。一定のメリットを理解した段階で、強制的な仕組みというものも必要かなと感じた。との回答がありました。

技術者からはカード登録が進まないのは、メリットがないからに尽きる。大手の現場に行くとカードは必須だからカードを持たされているという認識がある。本人たちが何のためにこれをしているのか理解していないのが現状である。クレジットカードのような円に換算できるようなポイントを付けるということになれば、多少なりともやるようになる。といった意見が出されました。

続いて、周辺対策については、①建設業は社会に貢献している業種だと思ふが、周辺環境に与える影響も大きい。工事内容を理解してもらうため、掲示板の設置やパンフレットの配布を行った。季節ごとの催し、地域の問題を聞くことができるよう意見箱の設置を行った。②工事を進める上で周辺住民と接触することから、工事を開始するお知らせや、工程を周知するようにしている。③数年にわたり、工事を行う場合もあるので、地域住民の

理解と協力が必要、地域住民とのコミュニケーションとして工事着手時の挨拶、毎月の進捗状況の説明、工事PR紙の配布などを行っている。交通規制や振動、粉塵等の対策も実施している。④現場を円滑に進めるため周辺対策は最重要と考えている。具体的には工事の理解を得るため、お知らせチラシの配布や粉塵対策としての粉塵抑制剤の使用などを行っている。といった事例発表がありました。

名古屋市からは、地元対策は目に見えないところで大変苦勞している。発注者側も親切に対応する必要があることを改めて認識した。

愛知県からは、周辺対策で一番大事なのはコミュニケーションだと思っている。丁寧や説明や地域に足を運ぶといったことを一つひとつやっていくことが重要だと考えている。

中部地方整備局からは、周辺対策は受注した業者の努力で現場がうまく回っているのが実情だと思ふ。受注者の行う地元対策が工事の評価でしっかり評価できるよう努めていきたい。

との回答がありました。

次にフリートーキングに入り、①ICTの活用に関してどこまでの作業を利用しているのか、②快適トイレの普及はどの程度か、③山間部の住込みの現場で、男女の配慮はどうしているのか、④山間部での通信状況とその対処はどうしているのか、⑤現場作業員のための快適性に関する工夫はどうしているか、といった内容について意見を交換しました。

最後に中部地方整備局の川上技術調整管理官から、①SDGsについては現場の4大管理である出来形管理、現場管理、工程管理、安全管理に最近の環境を含め5大管理と言われているが、それぞれを見てくると相反するところもある。全体の管理の中で最適解を見つ

けながら進めていくということで苦勞しているというテーマであったと思う。②建設キャリアアップシステムは直接発注者にはメリットがない。インセンティブだけを与えて無理やらせるのは一番やってはいけないことである。生の声を聞いて業界にとって良いものならば進めていく若しくは良いものにしていくようシステムを改良していくものだと感じている。③周辺対策はまさに現場技術者の腕の見せ所だという印象を受けた。知恵を絞って進めて行ってもらいたい。

との総括がありました。